

Essentials

まえがき

初 版

2002年4月1日から管理栄養士・栄養士養成施設カリキュラムが全面的に改訂される。新しいカリキュラムでは管理栄養士に対して、「病態の正確な理解と栄養状態の的確な評価を基にした栄養管理」を医療の専門家としておこなうことが求められている。そのためには、臨床栄養学の基礎知識をきちんと整理して理解することが必要である。本書は管理栄養士・栄養士教育のもっとも重要な柱である臨床栄養学について新しいカリキュラムに対応できるように、わかりやすく簡潔に解説している。病態の理解に基づく栄養療法という視点から最新の医学知識を盛り込み、重要なポイントをなるべく平易に説明するように心がけた。補足説明の必要なキーワードについては脚注を加えた。また、医療チームの一員として管理栄養士にも診療録（カルテ）を理解できることが要求されるが、カルテに用いられる用語集、頻用される薬品の商品名一覧、臨床検査値の意義と基準値も記載し、実践に役立つ内容となるように配慮した。

本書の前身である『臨床栄養学概論』は1975年に野崎幸久（現・日本女子大学名誉教授）と杉山二六佑によって書かれた臨床栄養学のパイオニアともいべき名著である。版を重ね、第4版（1993年）では逝去した杉山に代わり小松龍史（現・お茶の水女子大学教授）が補筆改訂をおこなった。今回、野崎名誉教授の提案により、『臨床栄養学概論』の伝統を引き継ぎつつ、全面改訂をおこない新しい書として発刊することになった。成人病が生活習慣病と名称が改められ、糖尿病の診断基準や高血圧の分類も改訂された現在、時機を得たものといえよう。執筆は医師として佐藤和人（内科）、本間 健（内科）、新村文男（小児科）、管理栄養士として小松龍史、松月弘恵が担当した。『臨床栄養学概論』の理念を引き継ぎ、医師と管理栄養士が緊密に連携をとりながら執筆・編集をおこなった。

本書が管理栄養士・栄養士のみならず、看護師、薬剤師、臨床検査技師など医療スタッフの教育や研修に役立ち、臨床栄養学のさらなる理解につながることを願っている。最後に、本書の企画から編集まで根気強く携わっていただいた医歯薬出版編集部諸氏に心から感謝申し上げたい。

2002年3月

編集者一同